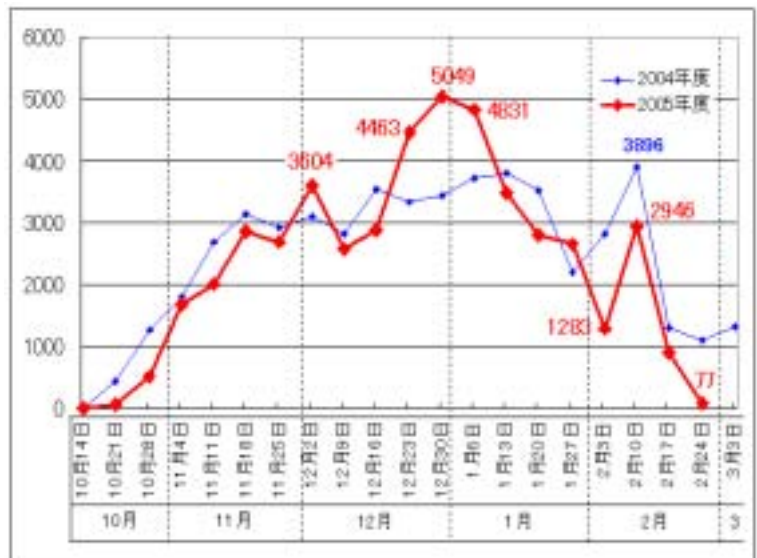


# 佐 潟 通 信

佐潟水鳥・湿地センター

## 佐潟の近況「秋から冬のように」

今冬は水鳥たちにとっても厳しい冬だったようです。佐潟に飛来する白鳥は少し早めの10月10日に初認、11月から12月にかけて徐々に増え3000羽になりました。12月中頃からの大雪で、餌場の新潟平野の水田は積雪で覆われたため、落ち穂などを採食しにくい状況になり、生息地域に変化をもたらしたようです。12月末にかけて県内最大越冬地である瓢湖の飛来数が減少、その代わり佐潟での飛来数が上昇し12月30日には5049羽をカウントしました。12月での5000羽台は初めてです。1月中頃からは積雪も減少方向、増減はあるものの徐々に飛来数が減り2月中頃には1000羽以下になりました。その下旬ではとうとう数十羽ほどに減少し越冬地としての佐潟の利用が終わりました。このように今季は、新潟県内山間部に大きな被害をもたらした大雪の影響が、白鳥など水鳥たちにも表れました。また、県内で積雪が少ない佐潟周辺域が採食地となったこと、ねぐらである潟が湧き水により完全結氷しないことなどから、佐潟は水鳥たちにとって良好な避難場所であることが証明されたように感じます。彼らはそういう情報を知っているのでしょう。感心してしまいますね。



## 自然・野鳥情報



マガモをハンティングしたオジロワシ。近年の佐潟に飛来するオジロワシは1羽だけという認識でしたが、風切羽の特徴から少なくとも今季は2個体以上のオジロワシが飛来していました。



1月13日佐潟近郊水田で珍しいシジュウカラガン(マガンより少し大きなタイプ)1羽を確認しました。その後1月29-28日には佐潟で確認しました。オオヒシクイ群と行動を共にしていました。(上記写真:1月13日小川幸助氏)



昨年も時々観察されていたサンカノゴイ(環境省レッドデータブック B類)が1月中旬以降ビデオで撮影されるなど頻繁に観察されていました。2羽同時観察もありますので繁殖もあるのか楽しみです。

## 佐潟の野鳥紹介「シロハラ」(白腹)



日本へは冬鳥として渡来します。冬には、低山帯以下の林にすみつき、1羽で生活します。草木の果実や昆虫類・クモ類などを食べ、庭先の餌台へ来ることもありますが、餌を拾っては茂みへ入って食べるなど明るい所を避ける傾向があります。地鳴きはキョッキョッと2声、飛びたつときツイーと鳴くほか、春にはにごった声でキョロンキョロンとさえずります。佐潟では、春と秋、渡りの途中に周辺の林に姿を見せるほか、

ごく少数は越冬しています。 全長：24.5cm 体重：67～77g

スズメ目・ツグミ科

英名：Pale Thrush

学名：*Turdus pallidus*

見分け方のポイント

ツグミの仲間の中でも、特徴のないことが特徴ともいえます。地鳴きの声が一番のポイントです。

## 佐潟の植物紹介「ミゾカクシ」(溝隠)

名前は、溝を隠すように繁茂することからで、別名は「アゼムシロ(畦薙)」といい、これも田の畦にムシロを敷いたように見えることからつけられました。湿り気のあるところに生え高さ 10-15 センチの多年草です。

淡紅紫色を帯びた小さな花を咲かせます。佐潟では佐潟橋前後の水際近くや自然生態観察園の木道脇などで観察できます。小さな手のひらのような愛らしい花をルーペでどうぞ。

花期 6～10月

分布 日本全土

キキョウ科ミゾカクシ属  
学名：*Lobelia chinensis*



花のポイント

1センチほどの花冠は5裂し、横向きに2個、下向きに3個になっています。注：上記写真は上下逆になっています。

## 佐潟での行事・保全活動(2005年秋～2006年冬)

### 菜の花の種を撒こう。

地球温暖化対策の一つである新潟市の「新潟菜の花プラン」を9月18日佐潟に隣接した畑でも実施しました。これは、菜の花を育て、菜種油を生産、地域の学校給食などで利用した後に出る廃油を加工して、軽油の代替燃料にしようというものです。佐潟を望む砂丘地に畑の所有者や子供が集まり、春の菜の花畑を思い浮かべながら草取りと種まき作業を行いました。花が咲き終わったら今度は菜種の収穫作業を予定しています。



### 佐潟クリーンアップ活動



地域住民主体で佐潟周辺の環境整備と保全活動を推進しようと「第3回佐潟クリーンアップ活動」が9月24日行われました。赤塚漁業組合、佐潟と歩む赤塚の会、地元住民有志で構成された佐潟クリーンアップ実行委員会の呼びかけに地元住民・小中学生、企業や団体、NGOなど市民約300名が参加、楽しみながら汗を流しました。

今回の特徴はこれまでの清掃活動のほかに舟道のドロ上げ、ヨシ刈り作業を試行したことにあります。これは、新潟市の佐潟周辺自然環境保全計画の見直しを協議する検討会議で地元赤塚の検討委員が共同提案した「地元提案佐潟保全策（古老の知恵から）」が了承されたことを受けての活動でした。あいさつに立った地元赤塚中学校生徒会長の金子祐大さんの「生徒会としても地域の方と協力して頑張りたい」という言葉が印象的でした。

舟道のドロ上げ



潟水の通り道としてかつての舟道を手作業でドロ上げを行いました。たとえわずかも水の流れを改善し、全体に広がるヘドロ状を呼び寄せて潟水の浄化へとつなげることを意識して取り組みました。



ヨシ刈り作業



夏場、生長し窒素など栄養を吸収したヨシを刈り、潟外へ出すことで、水質浄化につなげようというものです。今回、刈り取ったヨシは養鶏用飼料にし、ゴミにすることなくワイズユースも進めました。



参加者の感想（一部）

- ・ ヨシを片付け、佐潟の景観がきれいになり良かったです。こうした活動が継続していくことを願っています。
- ・ 今回初めて参加しました、小中学生、一般の方が多勢参加されているのにビックリしました。終わった後は「やった」とさわやかでした。
- ・ めっちゃ汚れたけれど楽しかった。思い出になってよかったです。来年もドロ上げやります！

### 佐潟の紙芝居「佐潟に生まれて」発表会

地元の佐潟と歩む赤塚の会が編集製作したDVD紙芝居（15分）の発表、上映が行われました。親しみやすい絵と地元なまりのおばあちゃんの語りに拍手喝采でした。これまで、秋の赤塚小学校文化祭と冬に老人会総会で上映されました。



2005年11月3日赤塚小学校体育館



2006年2月23日浄恩寺の老人会

# センターからのお知らせ

## 新野鳥観察舎「瀧見鳥」オープン



2005年10月8日国指定佐瀧鳥獣保護区観察舎が改築され、「瀧見鳥」という愛称でオープンしました。当日は地元、野鳥の会、「佐瀧自然散歩」参加者等有志がハス茶で乾杯しました。今冬は、探鳥者だけでなく散歩の市民も立ち寄り楽しめます。屋上観察デッキからは下瀧のほとんどが見渡せますし、カワセミなどの観察にも最適です。散策の休憩にもどうぞご利用ください。

2階観察室は8:15 - 17:15 開館、月曜日は休みです。(詳しくは湿地センターに問合せください。)

## 子供たちが「レンコン採り」



佐瀧で積極的な活動に取り組んでいる地元の赤塚小学校では、10月早々5年生がレンコン採りにチャレンジしました。水位を下げ干潟状態の佐瀧に長靴で入り、赤塚漁協・高橋さんの指導を受けながらレンコンやヒシの実採り体験をしました。生徒は採ったレンコンをてんぷらにし、また、透明な湧き水が流れるかつての水路の説明を聞き、佐瀧の歴史や文化、自然を体で体験しました。



## 佐瀧市民探鳥会

恒例の佐瀧市民探鳥会が1月29日開催されました。100人を越える野鳥愛好者が集い、各コース4班に分かれ野鳥を楽しみました。珍鳥シジュウカラガンを含む52種を確認でき、また、今回初企画の「佐瀧のオリジナル汁(エビのおろし汁)」が周遊後の参加者にふるまわれ、「体が温まった。うまい!」と好評でした。



## 佐瀧水鳥・湿地センター利用のご案内

【開館時間】9:00~16:30(冬期間の11月から2月の土・日は7:00から)

【休館日】月曜日(但し祝日の場合は翌日)、年末年始

佐瀧についての情報、質問等ありましたら、お気軽にFAXかE-mailをください。

編集 佐瀧水鳥・湿地センター  
〒0-2261 新潟市赤塚5404番地1  
電話 025(264)3050 / fax025(264)3051  
E-mail: sakata.wlc@alpha.ocn.ne.jp

発行 新潟市市民局環境部環境対策課  
〒951-8550 新潟市学校町通1番町602番地1  
電話 025(228)1000(内線)2731